

第160回 愛知学院大学モーニングセミナー

**ほんまに怖い浮世絵の幽霊!?
～涼しい夏を迎えるために～**

**国際浮世絵学会常任理事
元名古屋市博物館副館長
神谷 浩**

2019年7月9日

1 幽霊か妖怪か

- 幽霊は妖怪のひとつのタイプと考える。
- 幽霊と妖怪との違いを区別して考える。

	妖 怪	幽 霊
柳田国男 「妖怪談義」	おぼけは出現する場所が決まっている。	現れる相手(人)が決まっている。
小松和彦 『妖怪学新考』	「異界」に住む祀られぬ霊的存在	生前の姿で生者の前に現れる死霊
諏訪春雄	縄文時代のアニミズムに根ざす	弥生時代の祖霊信仰につらなる
	「異界」に住む	「他界」に住む
	生者であることが多い	かならず死者である
	近世は幽霊・妖怪の交錯／合体 鶴屋南北の戯曲	

2 幽霊はどのように描かれるか

◎日本画の幽霊の基準は、円山応挙（1733～95）。

「今人幽霊といへるものは、足なきもののやうに思へり。しかるに百年以前 描くところの冤魂（エンコン）には、ことごとく足あり。……扱てこの足なき幽霊は、いつ頃より出来しといへるに、こはいと近く、丸山応挙〈主水〉よりおこりし也。ふと冤魂のかきかたに工夫をつけて画き出でしより、一時に海内にひろまれり」

- 足がない
- 白衣など死装束、あるいは死亡時の姿を基本とする。
- 乱れ髪
- 手を懐に
- 子を抱く女性

3 幽霊画ふたつの大コレクション

(1) 全生庵コレクション

『牡丹灯籠』の作者でもある落語中興の祖、初代三遊亭圓朝（1839～1900）

の幽霊画コレクション。生前に柳橋で怪談会を催した時から、百物語にちなんで幽霊画百幅を目指して集めはじめた。同時代の画家たちに描いてもらったものが中心。百幅揃わないうちに他界したが、支援者(藤浦周吉)が充実させて、大正11年に40幅を全生庵（台東区谷中）に寄贈した。支援者は、その後も、コレクションを充実させ寄付し、全50点。全生庵には圓朝の墓があり、毎年かれの命日にちなんでおこなわれる圓朝まつりで、幽霊画コレクションを公開。

(2) 吉川観方コレクション 京都出身の日本画家であり風俗研究家だった吉川観方（1894～1977）

が収集した1万数千点の絵画、書跡、染織、工芸などのコレクション。日本の風俗を研究する中で幽霊や妖怪に魅せられ、大正年間に幽霊画集を出版するなどし

ている。現在は福岡市博物館のコレクション。肉筆のみならず浮世絵版画の幽霊、妖怪ものも多数含まれている。

4 幽霊画の魅力

- 幽霊画＝怖い。ときどきたのしく美しい。
 - ストーリーがありそうな作品。分からないと単に「怖そうな」幽霊画 だが、物語が分かると本当に「怖い」幽霊画
- ストーリーを知らなくとも怖い「幽霊画」

5 浮世絵の幽霊

(1) 錦絵

- ① 歌舞伎の役者絵として 名脚本家鶴屋南北（四代目）が「東海道四谷怪談」などの怪談物を 歌舞伎や浄瑠璃で怪談物が流行する。→講談(講釈)、落語、浄瑠 さまざまな文芸で流行。

(P)舞台の様子を描く場合 (I)役者大首絵で描く場合

お岩（『四谷怪談』） お菊（『皿やしき』）

小幡小平次（こはだこへいじ 『怪談小幡小平次』）

浅倉当吾（あさくらとうご 『東山桜莊子(七が シマクラリウツ)』）

牡丹灯籠（三遊亭圓朝による落語の怪談噺→脚本化）

- ② 舞台上の姿から離れて「幽霊」そのものを描く

(2) 読本の挿図として

純粹に物語を絵画化